

イスラエル・パレスチナ問題を 私たちはどれほど知っているだろう？

この国のリアルを作っている多様なレイヤーを体験し、ピースプロセスへの挑戦、またそれを漸進させる気持ちを動機づける旅

本プログラムの目的

- イスラエル・パレスチナに住む人々の歴史の再検証
- 民族および宗教集団というものを知り、慣れ親しむ
- 彼らの生き方、信念、視野、そして関係性の中に身を置く
- 紛争に対する理解を深める
- ピースプロセスへの様々な視点を共有する

目次

現地で考える、イスラエルとパレスチナと私・・・	2
ガリリー・インスティテュートについて・・・	3
スペシャルレクチャーズ・スタディツアー・・・	4
講師紹介・・・	5
ツアー日程・・・	6
費用について・事前説明会について・・・	7
申し込み方法・FAQ・・・	8
2018 年の参加者の声・・・	9

●2019 年サマープログラム担当

Japan-GIMI Relation Coordinator
加藤杜亮 Morisuke kato
Centre for Middle East and Religious Studies
mkato@galilcol.ac.il www.galilcol.ac.il



HP 用 QR コード

現地で考える、イスラエルとパレスチナと私

この「問題」を、単純に「イスラエル・パレスチナ問題」というふうにはラベリングして捉えてしまうと、静的（スタティック）に見えるが、本来この「問題」と捉えられる事象は動態（ダイナミック）である。イスラエル・パレスチナそれぞれから講師を招聘し、現在起こっている紛争の「リアル」を提供し、さらに、分離壁やユダヤ人入植地、イスラエル国内のアラブ人集落等へのスタディーツアーでは、五感を研ぎ澄ましてフィールドに飛び込む。それぞれの環境で暮らす多様な人とミーティングやディスカッションをし、重層的かつ動態的なこの問題を考える。

現地に来て、現地の生の声を聞き、そこに在る生の姿を見て、多元的で持続的な共存に必要なことは何なのか、自分自身の心と言葉で考えてみてほしい。そして、生きている世界への共感を深めてほしい。

ガリリー・インスティテュートは2009年より日本人学部生・院生を対象として『The Israel - Palestinians, Understanding both sides～双方の視点から考察するイスラエル・パレスチナ問題』というサマープログラムを開催しています。

本プログラムの目的は、国際社会でも一際注目を集める「イスラエル・パレスチナ問題」に焦点をあて、現地での一流の講師陣による講義やスタディーツアーを通じて、参加者が中東情勢に対する知見を深め、問題解決への多角的な視点を培うことにあります。紛争問題を考える上で、一つの立場における現実、別の立場ではどう受け入れ難いものになり得ることがあります。そのような複雑な問題が入り組んだ現状が、まさに当地の性質であると言えます。8日間の行程で、紛争問題に直面している当事者の「物語」を聞き、参加者が中東問題をより深く理解するためのリアリティを肌で体感して頂くことをサポートいたします。また、滞在中の全日程は英語を使用致します。講義及びスタディーツアーは対話を重視したインタラクティブな内容となっておりますので、参加者による積極的な姿勢は大歓迎です。将来、グローバルな舞台での活躍を目指す学生にとっては、実務レベルでのコミュニケーション能力を高める絶好の機会ともなるでしょう。

本プログラムは、参加者が知識獲得に留まらず、自らが現場を視察する体験を通じて、より実践的な学びを得られることを目的とした“体験型学習アプローチ”を採用しています。講義には、イスラエル・パレスチナに帰属する著名な講師や第一線にて活躍する関係者を招聘し、体験的に理解を深めるための視察も実施しています。また、スタディーツアーにおいては、イスラエル側の戦略・政治的地域の視察に加え、ユダヤ人入植地やアラブ人集落など、通常の個人旅行ではアクセス困難な場所や関係者との接触の機会を多く盛り込んでいます。混迷を極めるイスラエル・パレスチナ問題は、これだけ国際社会の関心が集まりながら、解決の兆しは一向に見えません。国際社会の一員として、私達日本人が培うべき力は、当事者の何れもが国際的社会で孤立しないための、バランス感覚に基づく理解力ではないでしょうか。本プログラムでは、双方の状況を幅広い問題意識に基づいて検証し、当事者との対話を通じて、中東問題への実質的な理解力を培うことを目指します。対立や紛争が終わらないこの世界で、中東和平を実現するためには私達に何が求められているのでしょうか。

*プログラムの全課程修了者には、当機構より修了証を授与いたします。

ガリリー・インスティテュートについて

GIMI – Galilee International Management Institute

ガリリー・インスティテュートは、イスラエル北部に位置する国際マネジメント研修機関です。専門性向上や能力開発支援のための研修を 160 カ国以上もの開発途上国、先進国のリーダーや専門家に提供しています。世界でも有数のマネジメント機関として知られており、これまでに 1 万人以上もの上級管理者や専門家、研究者が当機関の国際プログラムを受講しています。当機関では、定例開催のプログラムに加え、世界各国の政府機関や国際組織の要望に沿って、テーラーメイドプログラムもご用意しております。全てのプログラムは英語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、アラビア語、その他ご要望に沿っていくつかの言語で開催しております。

ミッションステートメント

ガリリー・インスティテュートのミッションステートメントは、教育や能力開発支援を通して、先進国と開発途上国の格差を是正することです。私たちは、グローバル化の時代において、教育の力とアイデアの共有こそが、社会的にも経済的にも人々をつなぐ鍵であると信じています。そのため、グローバルとローカル双方における協力関係を促進していきます。また私たちは、イスラエル-パレスチナ間及び、他の中東地域のリーダーをつなぐ架け橋となるプログラムも推進しています。中東地域全体の平和構築は政府による話し合いのみならず、草の根レベルの人と人との信頼構築が重要であると信じているためです。

事業内容

専門性向上や能力開発支援プログラムを世界各国の専門家や実務者に提供しています。参加者の多くは各分野の上級管理者や専門家、世界各国からの学部生・院生等であり、今までに 1 万人以上もの方々にプログラムを提供しています。主な活動分野は、当イスラエル国が比較優位性を有する、灌漑農業やアグロビジネス、イノベーション、環境エネルギー、戦略・安全保障、中東研究など多岐に渡ります。

■ 2019 年サマープログラム担当者
 Japan-GIMI Relation Coordinator
 加藤杜亮 (Morisuke Kato)

立教大学経済学部経済政策学科 立教大学体育会自動車部
 ケニア生まれ。佐賀県育ち。趣味は車いじりと、絵を描くこと。
 イスラエルに来て初めての自炊にはまっています。

Israel – Palestine Conflict: Understanding Both Sides

日本人学部生・院生対象 夏季中東研修プログラム 2019

2019 年 9 月 3 日～10 日





スペシャル レクチャーズ

本プログラムでは、イスラエル・パレスチナ問題を多角的に捉えて頂くために、イスラエル/パレスチナに帰属する講師による、およそ30時間にも及ぶ英語での集中講義を通じて、双方の視点から紛争問題を深く考察して頂ける内容となっています。講師には、イスラエルやアメリカの大学で中東地域を専門に活躍する世界トップレベルのイスラエル/パレスチナ人（大学教授、元イスラエル政府職員、パレスチナ自治区関係者、NGO 職員等）を招聘します。

講義内容例

- ・ Israeli Society: Sociological Structure, Trends and Prospects
（イスラエルの社会：社会構造、傾向、展望）
- ・ Zionism and the Realisation of the State of Israel （シオニズムとイスラエル建国までの過程）
- ・ War of 1948 and the Palestinian Refugee Crisis （1948年戦争とパレスチナ難民問題）
- ・ Israel and the Palestinians : Longtime Dispute （イスラエルとパレスチナ：終わらない紛争）
- ・ Oslo Accord - an Insider's View （オスロ合意—当事者の視点から—）
- ・ Religion and Democracy in Israel - Friends or Foes? （イスラエルにおける民主政治と宗教）
- ・ Elections, Political Parties and the Security Agenda
（イスラエルの政治—選挙、政党、安全保障政策—）
- ・ Palestinian Perspective on the Peace Process （パレスチナの視点から考える和平プロセス）
- ・ The importance of Religion in the Middle East （中東地域における宗教の重要性）
- ・ Hamas against Fatah- the Internal Palestinian Struggle
（ハマスとハタファの争い—パレスチナ内での闘争—）
- ・ Two Complementary Views on Making Peace （平和構築への二つの視点）

スタディーツアー ※過去例

- ・ 神殿の丘 ～3大宗教の聖域 Holy Land を体感
- ・ イスラエル・アラブの村 ～Jisr az Zarqa（イスラエル国内にあるアラブ人集落）を訪問
- ・ ユダヤ人入植地（現地 NGO 団体 Roots との対談）～占領地域と呼ばれる場所での当事者との対談
- ・ ホロコースト博物館 ～ユダヤ史に残る悲慘な歴史を目で捉える
- ・ ジェリコ農産加工団地～日本政府の主導で始まった平和への取り組みの現場を視察
- ・ 死海での浮遊体験
- ・ イスラエル外務省訪問 ～イスラエルの外交機関の訪問
- ・ ガリラヤ湖・ゴラン高原
- ・ Centre for Humanistic Education(Lohamai Hageaot キブツ)

Israel - Palestine Conflict: Understanding Both Sides

日本人学部生・院生対象 夏季中東研修プログラム 2019

2019年9月3日～10日

講師紹介

ガイ・アブトブル・セリンジャー (Guy Abutbul Selinger)

ブランドイス大学社会学大学院博士課程修了 PhD (社会学博士)

主要経歴: テルアビブ大学教育学大学院ポストドクター研究員、テルアビブ大学法律学部講師

Dr. マハ・エルタジ・ダグハシュ (Maha El-Taji Daghash)

ワシントン大学中東地域研究科博士課程修了 PhD (政治学博士)、ノートルダム大学人権研究科修士課程修了 LLM (法学修士)

主要経歴: ヘブライ大学ポストドクトラルフェロー

Dr. モシェ・エラド (Moshe Elad)

ハーバード大学ケネディ行政学大学院博士課程修了 PhD (公共政策学博士)、ハーバード大学ケネディ行政学大学院修士課程修了 MPA (公共政策学修士)、ヘブライ大学学士課程修了 BA (中東歴史学) BA (教育学)

主要経歴: サミュエルニエマンインスティテュート科学技術研究科国家安全保障調整官、イスラエル国防軍予備役大佐 (ヨルダン川西岸・レバノン地区担当: 30年)、元地域安全保障局長 (RSC)、ヨルダン川西岸区域イスラエル軍政府長官 (インティファダ時)、パレスチナ政権調整官・イスラエル国防省アラブ地域政策補佐官

エリアス・ザナニリ (Elias Zananiri)

ソマリア国立大学学士課程修了 BA (政治学学士)

主要経歴: パレスチナ統治機構 (PLO) 対イスラエル政策副委員長; 政策アドバイザー、元パレスチナ自治区内務省・国際安全保障政策アドバイザー兼報道官、元パレスチナ自治区法務省政策アドバイザー

Dr. サリム・ムーニエ (Salim Mounier)

PhD、MA (神学・国際文化学修士)、BA (地政学)

主要経歴: NPO ムサハラ理事長 (イスラエル・パレスチナ和平)

Dr. ニル・アトモル (Nir Atmor)

ヘブライ大学大学院修士課程修了 PhD

主要経歴: イスラエルデモクラシーインスティテュート (IDI) 研究員

Dr. ヤロン・フリードマン (Yaron Friedman)

ソルボンヌ大学大学院博士修了 Doctorate

主要経歴: イスラエル工科大学講師 (中東研究、アラビア語)、イスラエル外務省研究員

Dr. サビア・ハンデルマン (Sapir Handelman)

テルアビブ大学大学院博士課程修了 PhD、テルアビブ大学大学院修士課程修了 MA、ベングリオン大学学士課程修了 BSc (理学士)

主要経歴: ウェイン州立大学平和紛争研究センター客員教授 (ミシガン)、ミズーリ大学客員教授、ハーバード大学心理学部准教授、ハーバード大学ポストドクトラルフェロー、ドイツ中東研究センター (GIGA) 客員研究員、ウォルターエッケンインスティテュートポストドクトラルフェロー

* 担当講師は 2018 年度例となっております。プログラム内容は例年同じとなっておりますが、変更になる場合もございます。担当講師はプログラムにより変わります。

Israel - Palestine Conflict: Understanding Both Sides

日本人学部生・院生対象 夏季中東研修プログラム 2019

2019 年 9 月 3 日~10 日

ツアー日程例（2018年8月3日～10日）

8月2日（木）	8月3日（金）	8月4日（土）	8月5日（日）	8月6日（月）
各航空到着時間 チェックイン ゴールデンクラウン ホテル@ナザレ	8:00 オリエンテーション 8:30-11:30 イスラエル社会の文化 と構造 11:30-12:30 アカデミックオリエン テーション 16:00-19:00 シャバット見学 チェックイン リモニムホテル@エル サレム 20:00-22:00 和平への可能性～パレ スチナの視点から～	7:30 スタディツアー出発 8:30-10:30 ベツレヘム視察 11:00-12:00 平和構築 NGO “Holy Land Trust”との 対談 13:30 - 18:00 死海浮遊体験	7:30 チェックアウト リモニムホテル 8:00-10:00 神殿の丘 10:30-13:30 分離壁見学 14:30-16:30 ユダヤ人入植地視察 NGO“Roots”との対談 チェックイン ゴールデンクラウンホ テル	8:00-10:00 イスラエルとパレス チナ～終わらない闘 争～ 10:30-13:30 イスラエルパレスチ ナ問題における根本 的な問い 14:00-16:00 パレスチナ難民問題 16:00-18:00 イスラエル国内のパ レスチナ人
8月7日（火）	8月8日（水）	8月9日（木）	8月10日（金）	8月11日（土）
7:00 スタディツアー出発 8:00-17:30 ガリラヤ地方視察 イスラエル国内のマ イノリティとその多 面性 Mr. Malal	10:00-12:30 「イスラエルのアラブ 人女性達」 14:00-17:00 「イスラエルの選挙制 度と民主主義」 Dr. Atmor	09:00-12:00 「ハマスとハタファ ～その原点～」 14:30-16:30 オスロ合意から25年を 振り返って Dr. Hirschfeld 19:00-20:00 修了式 (キブツ・ナハラル) 20:00-21:30 フェアウェルパーティー	09:30-12:30 イスラエル・パレスチナ 紛争問題 ～平和構築への2つの 視点～ 13:30-14:30 コンピューター評価 スタディツアー 16:00-19:00 Jisr az Zarwa 村視察	9:00 ホテルチェックアウ ト 空港送迎 *夜の便は日中、テル アビブ観光サービス

Israel - Palestine Conflict: Understanding Both Sides

日本人学部生・院生対象 夏季中東研修プログラム2019

2019年9月3日～10日

費用について

●現地費用

ツインルーム（二人部屋）： \$1860

シングルルーム（一人部屋）： \$2250

- ・ ツインルームをご選択の場合は、他参加者と相部屋でのご利用となります。
- ・ 現地費用内訳：宿泊費、交通費、食費、空港への送迎費、海外保険料、登録料、インターネット料金、ツアー料金等
- ・ 早割り制度（Early-Bird System）：本年7月1日までにお申し込みいただいた（申し込みの時点、送金の前）参加者の方には、上記現地費用より\$100の割引をさせていただきます。皆様の奮ってのご参加を心よりお待ちしております。
- ・ **航空券は、参加者各自の手配**となります。
- * 航空券は取得時期によりお値段が変動します。早めのチェックをお奨めします。

●授業料

授業料： \$1050

- ・ 授業料につきましては、参加理由書をご提出頂いた方を対象に、全額免除の奨学金を提供させていただきます。
- 奨学金を希望する方は、登録書類に加えて、参加理由書を提出して頂く必要があります。フォームのダウンロードはホームページからお願いします。www.galilcol.ac.il

●申し込み締め切り：7月1日（月）

キャンセルについて

参加予約をキャンセルされる場合は、プログラム開始日より起算して料金を返金させていただきます。

- プログラム開始の20日以上前 80%
- プログラム開始の10～20日前 50%
- プログラム開始の10日以内 返金不可

プログラム無料事前説明会

ご参加をお考えの皆様を対象にプログラム事前説明会を5月または、6月に予定しております。（問い合わせ件数に応じて、開催時期と回数を決定いたします）。

事前説明会では昨年度参加者から、体験談、様子等の説明があります。プログラム担当者（加藤）はビザの関係で帰国できないため、スカイプにて参加します。

後日、説明会出席希望者には詳細をご連絡致します。説明会内容・お申し込みについては、QRコードから、または担当者にお問い合わせください。

※通常のサマープログラム（各国参加者対象）では、費用だけでも70万円以上かかってしまうところ、「日本人大学生にもイスラエル・パレスチナ問題について理解を深めて頂きたい！」そんな想いから、通常2週間の研修期間を一週間に短縮し、参加費用も大幅に値引きしました（申込者全員に授業料（10万円）免除の奨学金も提供）。過去の参加者には毎年大好評を頂いております。

Japan-GIMI Relation Coordinator

加藤杜亮 Morisuke kato

Centre for Middle East and Religious Studies

mkato@galilcol.ac.il www.galilcol.ac.il



HP用QRコード

Israel - Palestine Conflict: Understanding Both Sides

日本人大学生・院生対象 夏季中東研修プログラム 2019

2019年9月3日～10日

お申し込み方法

本プログラムの申し込みにつきまして、ご提出いただく書類は以下の6点となります。HPからダウンロードしてください。

＊直接書き込み、手書きのどちらでも構いません。また、今回のプログラムでは、申請書類に加え、参加理由書をご提出頂いた全ての方を対象に授業料全額免除(1050米ドル)の奨学金を提供いたします。

1. Registration Form 登録用紙
2. Sponsor's Guarantee of Payment 代金支払い保証書
3. Visa Application Form ビザ申請書
4. Declaration of Intent 宣誓書
5. 日本語の履歴書(学問背景や海外プログラム参加経験など)
6. パスポートのコピー(顔写真が記載されているページ)

お申し込み完了までのステップ

- Step1** 登録用紙・代金支払保証書・ビザ申請書・宣誓書これら4点の記入用 PDF ファイルをダウンロードページあるいは担当者へのメールにて入手。
- Step2** 入手の PDF ファイルの署名欄以外の空欄に記入、印刷。署名欄にサイン・押印し、スキャンした後、保存。
- Step3** パスポートの顔写真が記載されているページをスキャン、保存。
- Step4** スキャンした全ての書類(登録用紙・代金支払保証書・ビザ申請書・宣誓書・パスポートコピー)と日本語での履歴書を併せて担当者(加藤: mkato@galilcol.ac.il)へメール添付にて送付。
- Step5** 10 日以内に当機関の送金担当よりご連絡を差し上げます。送金に関する詳細を記載した資料を当方より送付しますので、そちらに従ってご記入ください。
- Step6** 当方指定口座にてお振込みを確認後に完了。

FAQ

Q プログラムにはどのような方が参加しますか？

本プログラムには、例年、様々な方にご参加頂いております。中東情勢に興味があり勉強を始めたい人、現地の当事者の生の声を聞きたい人、中東を研究する学生、国連模擬参加者、国際協力学生団体、平和構築実務家を目指す人、JICA 職員など他にも多くの方がいらっしゃいます。同世代の学生が中心ですので、お気軽にご応募下さい。

Q 参加するにはどのくらいの英語力が必要でしょうか？

例年かなり英語力の高い学生にご参加頂いているため、目安として TOEIC700 点以上の英語力は必要だと考えております。しかし、担当者(加藤)が、プログラムに必要な前提知識や資料等をお送りするほか、現地で必要に応じてサポート致します。英語力に自信がない方は事前にご相談ください。また、1 日の終わりに「振り返り」の時間がありますので、参加者全員で学んだことを共有することが出来ます。積極的に参加する意志のある方はどなたでも大歓迎です！

Q ガリリー・インスティテュートが提供するプログラムの強みは何ですか？

当機構の一番の強みは参加者のご要望に合わせた、テイラーメイドのプログラムを提供することにあります。そのため、過去の中東研修サマープログラムにおけるスタディーツアー場所も多岐に渡ります。「プログラムに期待すること」をご記入いただきますので、皆様からのご要望に沿ったプログラムを提供できるよう最大限の努力を致します。受講可能なカリキュラムを知りたい方は担当者までご連絡ください。

＊スケジュール、現地事情を全て考慮した上で、検討させていただきます。

Q プログラムは現地集合・解散ですか？

はい。現地集合・解散となっております。行き帰りとも当機構の送迎サービスをご利用頂けます。また、イスラエルでは3 カ月以内の滞在であれば観光ビザが発行されますので、プログラム前後に自己責任でイスラエル国内を旅行して頂くことも可能です。

Q 宿泊先は相部屋とありますが、どのような人と一緒になるのでしょうか？

本プログラムにご参加頂く他日本人参加者(同性)と二人部屋でのご利用となります。申し込み時に追加費用 \$ 390 でシングルルームをお選び頂くことも可能です。宿泊先の写真をご覧になりたい方はホームページをご覧ください。

Q イスラエルは危険なイメージがありますが？

現在、イスラエルで情勢が不安定な地域は主にパレスチナ自治区にあるガザ地区付近となっており、本プログラムで訪れることはありません。その他の地域は日本と変わらず安全です。プログラム担当者(加藤)は NAHALAL(キブツ・ミズラの近く)で毎日夜 10 時のランニングを日課としておりますが、特別私が以前住んでいた小金井(西東京)と違うと感じたことはありません。今回のプログラムで講義を受けるスタディーセンター(キブツ・ミズラ)は、イスラエル北部に位置するのどかな農業地域として知られています。イメージをご覧になりたい方は、当機構 Facebook ページの投稿をご覧ください。※(最新の詳しい現地情報を知りたい方は、大使館 HP、または外務省渡航安全情報をご覧ください。)

2018 年参加者の声

出会ったアラブ人の言葉に衝撃

本プログラムの参加で、実際に双方の立場からの言葉を彼ら自身の声で聞き、中東問題を考える上での新たな視点を得ることができました。最も衝撃を受けた(印象的だった)のは、高く冷たく固い分離壁の前で聴いた「あの分離壁の建設に日本人も加担しているかもしれない」というアラブ人の言葉でした。モノや技術がグローバルに動く今、イスラエル・パレスチナ問題は遠く離れた場所で起こっている問題ではないと気づかされました。実際に自分の目で見て、聴いて、自らの手で触れて、メディアを通して知る現地のリアルとは別の「リアル」を体感でき、中東問題を自分事として考えていくきっかけになりました。(家田智美)

参加した人にしか得られない複雑な感情を抱いた

近年情勢の変化が激しく世界的な関心が高いが、一向に解決の兆しは見えないイスラエル・パレスチナ問題に関する講義を通し、紛争問題はなぜ解決が難しく、そこに対し自分はどのように関わっていけるのかを考える糸口を掴むことができる。片方の正義は、他方からすると受け入れ難い現実として突きつけられる。イスラエル・パレスチナ双方の生の声を聴き、現状を自分の目で見た時、参加した人にしか得られない複雑な感情を抱いた。しかし、これこそが紛争問題を理解し考える上では、大切な一歩だと確信する。政府、民間。イスラエル、パレスチナなど、多様な立場から見たイスラエル・パレスチナ問題に対する講義や、スタディーツアーを通して現場に訪れることで、国際的なバランス感覚に基づく、中東問題への理解を深めることができる。勇気を出して飛び込み、本気でぶつかれば、必ずそれ以上の価値ある体験を得ることができる充実したプログラムであると確信する。(本間弘光)

過去の参加者出身大学・組織一覧

(北海道) 北海道大学 (東北) 秋田大学、秋田国際大学、東北大学 (北陸) 金沢大学 (関東) 筑波大学、獨協大学、青山学院大学、亜細亜大学、桜美林大学、学習院大学、慶應義塾大学、国際基督教大学、創価大学、上智大学、中央大学、津田塾大学、東京大学、東京外語大学、一橋大学、法政大学、明治大学、立教大学、早稲田大学、神奈川工科大学、神奈川大学、千葉大学、麗澤大学、国際協力機構 (JICA) 防衛省防衛研究所、日本・イスラエル・パレスチナ学生会議 (中部・東海) 静岡大学、東海大学、愛知県立大学、名古屋大学 (関西) 大阪大学、関西大学、関西学院大学、京都大学、同志社大学、立命館大学、甲南大学、神戸大学、神戸大学大学院国際協力研究科 (中国) 広島大学 (九州) 西南学院大学、立命館アジア太平洋大学 (北から順)

中東研修プログラム所感

分断線はどこにあるのだろうか。イスラエルとパレスチナ、ひいてはこの両者の間の問題をめぐり「中東」地域、「グローバル」な地域にまで波及する現在進行形の問題をどう捉えるべきなのだろうか。

その複雑性ゆえ、この問題は一般的に「宗教対立」や「聖地をめぐる争い」など過度に単純化されたレトリックで説明されがちであるが、現実においては時間軸・空間軸などにおいて姿形を変えながら実社会に内在しているはずである。実際にプログラムを通じてレクチャーを受けたり五感で現地の「匂い」に触れたりすることで、それまで報道や文献で見聞きしていた問題が「動き出す」。現地での数日間の間でも「もやもや」とすることが多々あるに違いない。しかしその「もやもや」こそ、それまで自分が捉えてきた問題に対する見方が相対化されている証拠であり、「もやもや」を放置するのではなく、帰国後も考察し続けて欲しい。

もちろんこのプログラムだけでこの問題について「わかる」ということはないが(むしろわかった気になるのが一番危ない)、研修プログラムは問題の様々な「かお」を捉えるための手助けをしてくれる。大学等での学びをダイナミックなものにする機会にもなるに違いない。

(米田優作)



Israel - Palestine Conflict: Understanding Both Sides

日本人学部生・院生対象 夏季中東研修プログラム 2019

2019 年 9 月 3 日～10 日